

令和5年度 学校関係者評価

1 学校教育目標

「世界に通じる学力」と「リーダーにふさわしい人間性」、「健やかで逞しい心と体」を備え、地域社会をリードし国際社会に貢献できる人材の育成

2 年度の重点目標

- 生徒一人ひとりの確かな学力の向上と進路実現
- 経験・体験を通して「実感」させることを重視した教育活動
- 心身共に健康で逞しい生徒の育成
- 教職員の資質向上、働きやすい職場、開かれた学校づくり

「達成度」は、教職員の自己評価によるものです。

3 学校関係者評価 (A非常に良い(85%以上) B良い(70~85%) C概ね良好(50~70%) D要改善(50%未満))

NO	評価の観点	評価項目	評価内容		達成度	学校関係者評価
			具体的方策・評価の際の着眼点の例			
1	学校運営	組織的の学校運営	学校運営について教職員の共通理解を深め、各学年と部の連携を強化し、協働体制を確立する。	B		
			<ul style="list-style-type: none"> ・校務運営委員会を中心とした共通理解の深化 ・各種委員会の活性化 ・教職員間のコミュニケーション活性化 			
			会議の効率化等を図ることによって教職員が生徒と向き合う時間を確保し、心の通い合う学校づくりを推進する。			
2			<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の適正化 ・会議の効率化 	C		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の協力体制が確立されており、健全な学校運営がなされている。 ・事業の選択と集中を進め、教職員の働き方改革を行うとともに、SSH等の先進的な取り組みをさらに進めてほしい。 ・先生方の残業が常態化しているようなので、残業に対するルール決めをされてはと思う。 ・学校運営については様々な活動を通じて先生方の協働体制も整っていると思う。 ・「生徒と向き合う時間の確保」については、先生方が忙しすぎる様に思う。会議の効率化等を見直し、余裕のある勤務態勢を臨む。 ・学校の情報入手について「お子様から」が多いのはいいことだと思う。ホームページの活用方法、在り方を検討することを考えられればと思う。 ・コロナによる行動制限がとけ、ますます地域社会との連携がとれればと思う。
3		スーパーサイエンス・ハイスクール事業を積極的に推進し、理数並びにSTEAM教育のさらなる充実と学校全体の教育活動の一層の活性化を図る。	B			
		<ul style="list-style-type: none"> ・広報の充実 ・定員の充足 ・共通理解と協働体制の確立 ・課題研究、海外研修など各種取組の充実 ・今後の展望や文理融合型カリキュラムについての検討 				
4		開かれた学校づくり	学校の情報を積極的に発信するとともに、学校評議員の活用や中学校、家庭、地域社会との連携を通じて、信頼される学校づくりを推進する。	B		
			<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信及びホームページ等の改善と充実 ・学校評議員の活用 ・PTA及び家庭との連携強化 ・中学校との連携強化 ・ふるさと貢献活動事業の充実 			
5		教育課程の改善	学習指導要領の改訂をふまえた教育課程の改善、指導力の向上を図る。	B		
			<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領対応に向けた、各種委員会等での継続的な検討 ・先進事例の研究 ・具体的な改善策の策定 ・指導法と評価法の研究推進、文理融合型教育課程の研究 			
6		教育課程教科指導	学力向上の支援	B		<ul style="list-style-type: none"> ・進学先の選択肢や高度化につながるような教育課程の改善や学力向上の支援をさらに進めてほしい。 ・新学習指導要領、学習向上の支援、STEAM教育の活動に向けての先生方の取組みは成果が出ていると思う。 ・STEAM教育、学習向上の支援等、大学学部講師、ICT活用により効果的に学習・研究が出来るよう検討をお願いしたい。
			基本的な生活習慣を確立させ、きめ細かな学習指導を通じて基礎基本の確実な定着を図り、授業への集中力と主体的な学習態度を養う。			
			<ul style="list-style-type: none"> ・各種学習活動（小テスト、課題調査、補習、模擬試験等）の計画的、効果的な実施 ・個人面談の充実、家庭との緊密な連携 ・学年と各教科及び学習指導部との連携 			
7		STEAM教育の研究	STEAM教育を推進し、新学科開設準備を進めるとともに、新しい時代のリーダーを育成するための事業を研究・実施する。	B		
			<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を活用したSTEAM教育の推進 ・進路実現につながる教科横断的な探究活動の実践 ・ICTを活用した各種交流（高大連携、国際交流等）の活性化 			
8		生徒指導	生徒指導の充実	B		<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代は基本的な体力の完成期となる。勉強と部活動の両立という従来からの方針を堅持してもらいたい。 ・部活動については教職員の過度な負担にならないように配慮願いたい。 ・生徒たちの元気が足りない感じがします。元気に高校生活を送れる指導をお願いする。 ・学校行事、部活動への積極的参加は学習活動とともに、どちらも大切なことであるので、ひきつづき両立できるようサポートをお願いする。 ・いじめ等も引き続き家庭との連携をお願いする。
			他者を思いやる心や人権を尊重する心を持った、礼儀正しく品格のある生徒を育成する。			
			<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動、いじめ、体罰、自殺等の未然防止（アンケートの実施、面談の充実、家庭との連携強化） ・学年と生徒指導部の連携等による迅速な組織的対応 ・挨拶、掃除、時間厳守励行等の指導 			
9		特別活動	部活動の充実	B		
			学校行事や部活動に積極的に参加させることにより、健全な心身の育成と社会性の涵養を図る。			
			<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動、ホームルーム活動の活性化 ・学校行事の充実 ・学習と部活動の両立、部活動の活性化と再編の検討 			

NO	評価の観点	評価項目	評価内容		達成度	学校関係者評価
			具体的方策・評価の際の着眼点の例			
10	進路指導	キャリア教育の充実	自らの生き方を考えさせ、能力・適性、興味・関心に基づいて主体的に進路を選択し決定できる能力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学模擬授業、大学見学、進路講演会等の充実 ・入試情報等についての迅速かつ正確な情報提供 ・人材養成プログラムの推進（就業体験事業の充実） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導は幅広い知識が必要とされる中、成果は上がっていると思う。 ・今後もきめ細やかな進路指導をお願いします。
		進路実現の支援	自己の適性をふまえて明確な進路目標を持たせる。最後まで努力を続ける指導を行い、進路目標を達成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談の充実、家庭との連携 ・適切な進路情報の提供 ・保護者会、検討会の適切な企画運営 ・学年と進路指導部の連携 		
12	保健安全 教育相談	保健教育 安全教育の充実	健康診断や健康相談に基づく指導を徹底し、心と体の健康についての自己管理能力を高める。生涯にわたり安全に生活できる実践的能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・検診や相談の事前事後指導の徹底 ・救急救命法講習会や各種講演会の計画的、効果的な実施 ・保健だよりの発行 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の健康こそが、学校運営の支えとなり、豊高生徒の人材育成にもつながる。適切な勤務時間の配慮をお願いしたい。 ・教育相談についての評価が上がっていることは望ましいと思う。 ・今後も引き続き、相談者が利用しやすい環境の整備をお願いします。
		教育相談の充実	教育相談を身近なものとし、相談者が利用しやすい環境を整備し、より効果的に指導を行うことができるよう、その活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の確立 ・情報交換と支援体制の充実 ・教職員間の効果的な情報共有 ・教育相談だよりの発行 		
14	教職員の資 質向上	研修の充実	授業公開や職員研修に積極的に取り組み、教職員の専門性と実践的能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開、研究授業の充実 ・職員研修の計画的な実施と校外研修等の成果の共有 ・授業研究ユニットによる指導と評価の一体化の研究 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・お忙しい中研修等を重ねられ、その成果が出ていると思う。
15	危機管理	危機管理体制 の改善充実	家庭・地域・関係機関との連携を密にした危機管理体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアル、避難所運営マニュアルの改善充実 ・効果的な防災避難訓練の実施 ・関係諸機関（市防災課、警察、消防署、市教委等）との連携による情報の共有と対応の徹底 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルがあるのか気になる。（学校追記：策定し毎年更新している） ・危機管理体制の構内評価「3」が26.1%と多いのが気になる。 ・今後ますます必要になってくる部分だと思う。各機関との連携構築をお願いしたい。